

## 飼育記録

1. 418号水槽のハマクマノミが3月26日より10月10日まで、15回にわたって産卵。ふ化した仔魚の一部（餌付きした時点での総数320尾、6か月後の生存数51尾）は育成に成功した。

2. 幼魚期から育て417号水槽で飼育中のオニカマスとゴマフエダイは、成長が著しく容量5.7m<sup>3</sup>のこの水槽では手狭になったので、6月13日に416号(11.2m<sup>3</sup>)414号(46.6m<sup>3</sup>)両水槽へ移した。この作業は魚体の損傷を避けるためにMS-222麻酔下で行い、その機会に体長や体重を測定した。測定値は次の通り。

オニカマス(1985年11月採集、平均全長17cm)

個体番号	全長 cm	体長 cm	体重 g
1	83.2	71.3	3122
2	78.9	66.5	3218
3	77.4	63.6	2811
4	74.5	62.6	2380
5	70.0	57.5	1950

ゴマフエダイ(1984年10月採集、全長8cm)

1	73.6	59.4	7220
---	------	------	------

3. 6月19日、昨年より育成中のカクレクマノミ若魚17尾(平均全長3.2cm)を304号水槽に展示した。

4. 1987年12月より226号水槽で飼育中のツバクロエイが、6月27日に2回目の出産をした。幼魚5尾の全長は25.8~27.4cm、体盤長14.1~14.7cm、体盤幅25.8~27.4cmであった。夜間に生まれたため、この幼魚は朝までに排水孔に吸い付けられて死亡したが、同じ親魚は前年6月27日にも出産しており、この事実からツバクロエイの妊娠期間は1年以内であることが分かった。また親魚の採捕年月から、この2回の産児は水槽内での繁殖行動によるものであることは明らかである。尚、前年生れの幼魚4尾のうち2尾は順調に成育中で、満1年後の体盤長は17.9cm・18.7

cm、体盤幅33.1cm・37.0cm、体重318g・422gであった。

5. 他のカメを攻撃する癖があるので予備水槽に隔離中のアオウミガメ2頭を227号水槽に戻したが、やはり噛み癖が直らないので、7月23日に海へ放流した。

6. 町内袋漁港より8月27日にベニツケガニ属の希種2個体を入手。国立科学博物館武田氏に標本を送り、同定を依頼した。

7. 南部町堺漁港より9月28日にトラフシャコ(全長23cm)を入手。210号水槽で飼育・展示中。

8. 11月5日に雑賀崎一本釣り漁師よりミヤコベラ(全長25cm)を入手。225号水槽で飼育・展示中。本種の分布はこれまで沖縄島以南とされており、これは紀伊半島沿岸における初記録である。

### 水槽室関係設備機器の改修

1. 4月16日、229号水槽上部の換気用軸流ファン(2.2KW)を更新。

2. 5月16日、第2水槽室各濾過槽の排水トラフまわりのシリコンシーラントが老化し、隣接槽への漏水が生じたので、シーラントを打ち直した。

3. 6月4日、13年間の継続使用で老朽した第4水槽室の1号ヒートポンプユニット(3.7KW)を更新。

4. 6月13日、老朽により騒音がひどくなった1号揚水ポンプを更新(セイコー化工機PVCポンプ15KW→エバラ・ナイロンコーティングポンプ5.5KW)。小型化の理由は前報(第4巻)と同様。

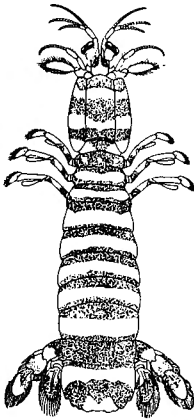
5. 8月13日、電気室内高圧線の一部が絶縁不良となったので、配線がえをした。この部分の老朽は南に面した換気孔からの潮風や雨水の流入によるものなので、換気孔外部に防滴カバーを設けた。

6. 9月26日、高圧受電用引き込み線が老朽し、絶縁不良の危険が生じたので、その取換え工事を行った。

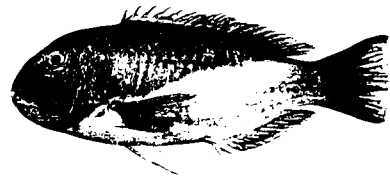
7. 11月26日、第1水槽室ヒートポンプ用冷却水ポンプを更新（エバラ FRP ポンプ 3.7 KW → 同ナイロンコーティングポンプ 3.7

KW)。これで同水槽室の揚水・循環ポンプはすべて更新された。

8. 12月14日、第4水槽室は使用休止水槽が増えたので、循環ポンプの運転台数を減らして電力を節約するため、主循環系の一部を配管がえした。



トラフシャコ  
*Lysiosquilla maculata* (Fabricius)



ミヤコベラ  
*Choeodon robustus* (Günther)